

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373401011		
法人名	医療法人社団井口会		
事業所名	グループホーム青空		
所在地	真庭市西河内42-2		
自己評価作成日	平成23年9月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成23年10月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症を持ちながらも穏やかで楽しみのある、共同生活が出来るように支援しています。・同一法人内に総合病院と精神科の専門病院があり、医療面では、24時間対応できるシステムがある。・共用型の認知症対応型デイサービスを運営しており、入居者とデイサービス利用者と一緒に生活することで入居者の活性化になっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

立地条件に恵まれ、地域との関係も良好である。運営推進会議も、行政 地域住民 関係者が積極的に参加し地域密着型事業所としての役割を十分にはたしている。大きな組織にありがちな、行政的な対応ではなく利用者の生活面を重視した対応に心がけ小規模施設のよさが感じとれる施設でした。他事業所では困難事例として取り扱われる事例を、管理者・職員が一つになり対応しその人らしい生活を取り戻された姿を見ることができました。23年9月の台風の河川増水時に、グループホーム全体で地域のコミュニティーへ避難し、大事に至らず日頃の災害対策の成果を聞くことができました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58		○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に見える所にあり、思いを共有し実践につなげている。	研修会・申し送り時に読み上げ意識統一をはかり、理念共有に努力されていました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加等を通し交流出来ている。また、散歩中の挨拶や会話で交流を深めている。	町内会の年2回の一斉清掃に利用者と職員と一緒に参加するなど地域との交流に努めている様子が窺えました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	一般の方に対するアプローチはまだまだ不十分な様に思います。GH行事に近所の方をお招きし利用者との交流の場を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回は実施しており利用者やサービスの状況をお伝えしている。その場で頂いた意見はスタッフ全員に共有しサービス向上に努めている。	運営推進会議も定期的には開催されていました。利用者のホームでの状況をパワーポイントを活用し報告するなど、会議の運営にも工夫がされていました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	在宅福祉担当者会に参加し、地域の担当者と連絡を取っている。市内のGH連絡会議があり、市の担当者と話し合いもできる。	情報交換しながら、課題について話し合い細かなことでも報告、相談ができているようです。市(行政)も参加した勉強会を開催するなど、事業所・行政が一つになり質向上に努力されていました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。安全の為の声かけや見守りを行っている。	身体拘束をしないケアに事業所全体で取り組み、職員教育及び、ご家族への身体拘束に関する説明も十分なされていました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、施設内の全体会議やカンファレンスで話し合いが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が施設内研修等を通して学ぶ機会はないように思うが、ケアマネ、ホーム長が必要な方は支援を実地している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ケアマネ、管理者により十分な説明が行われている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。意見等あればその都度管理者、ケアマネを中心に反映出来ている。	入所者家族からも数多くのご意見をいただき、運営にいかさせているようです。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議で意見を聞く機会である。また、管理者との個人面接があり意見を聞いてもらえる。	管理者が職員の意見を聞く機会を設けており、意見の相違・問題が出たときには、徹底的に話し合いをし問題を先送りせず意識の統一を図り、運営に活かされているようです。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の長所を十分理解した上で、スムーズな業務が出来るよう考慮してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修が受けれるチャンスを常に確保していると思います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で共に学んだ仲間が出来、意見交換やネットワーク作りが出来ている。連絡、相談を十分にし、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	そっと寄り添い話を聞く時間を持つように努めている。日頃からいい関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会などで家族と話をする時間を設ける。話しやすい空気を作れている。信頼関係を築く様務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネを中心に努めている。その時の見極めをしっかりと出来ていると思う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築いている。介護だけの関係ではなく、心の通い合える関係を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	密に連絡を取り良い関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なるべく本人の希望を聞き、今までの生活と同じようにして頂いている。地域の中に出かけて行き、知人や友人に会ったり、面会にも来てもらったりしている。	家にいる時から通っていた市主催の囲碁倶楽部に行く方、また喫茶店にコーヒーを飲みに行くなど日々の外出支援をしながら、なじみの関係継続に努められていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立せず関わりあえるよう日々努めている。また、利用者同士で支え合える場面が出来ていると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者、ケアマネが中心となりました、職員間でも検討している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスで検討している。	家族と常に連携をとり、本人の思い・気持ちを大切にされたケアに心掛けていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	まずは、その人を知る為、情報であったり自らの寄り添いをすることで、暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活リズムは大切にしつつ、その人の状態に応じてゆったりと生活出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のカンファレンスや毎朝申し送り時ミニカンファレンスを行い、本人、家族の思いを大切に計画を作成している。	介護職員の現場での気づきと、家族の意見を反映させたアセスメントを基に、現状に即した介護計画作成がされていました。特に家族との情報連携には努力されていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	キーワードを付ける事で以前より見やすくなり、職員間で情報が共有しやすくなっていると思う。また、見直しもしやすい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイの利用日でなくても一人暮らしで不安や不穩がある場合等空があれば利用して頂けるよう柔軟に対応出来ている。常に、その人の気持ちに立ち支援出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーに買い物などに行く楽しみや、ボランティアの方々による生け花、書道や舞踊等の楽しみにされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医は月1回、精神科医は月2回の往診があり、異常の早期発見や医師に相談できる機会がある。	家族対応の方、事業所対応の方と個別の対応をされていました。理事長が精神科医師であり専門的な対応にも力をいれている様子が窺えました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護時に変わった事をお伝えしている。また、状態の変化を常に看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の対応の仕方、入院準備、病院との連携の仕方等学んで行く必要がある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には段階を通じて報告、相談、助言等を行っている。	看取り 重度化に向けた取り組みには関しては家族と十分話をされているようです。	今後グループホームでの看取り 重度化に向けた取り組みへのニーズは非常に大きいものがあるとおもいます。グループ事業との連携も念頭に入れ利用者の希望に応えるべく努力をお願いしたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応の訓練を行っている。緊急時の連絡先、救急車の呼び方等訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は定期的に行い実践力を地域の方の方に協力頂き身に付ける事が出来ている。地震、水害は訓練不足だが、水害の際は地域のコミュニティーにスムーズに避難する事が出来た。	災害訓練は定期的実施されていました。地域・家族との連携も出来ており、河川増水時に訓練の成果が発揮出来たと聞きました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには気をつけている。親しき仲にも…の気持ちを忘れず対応している。	その方にとり何が尊厳なのかを考慮し、人としての基本的な権利を大切にされた対応がなされていました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々に会話で働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿って支援しているが、その時の体調や夜間の睡眠状態によって本人と相談している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人に沿ったお洒落を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が出来るのか理解し無理のないよう協力して頂く。職員も1人の同じ生活者であると感じている。	入所者個々の能力をよく見極め調理にも参加をさせていただきました。地元の味付けにしたり、食材も地元のものを利用したメニューでした。準備をされている入所者の顔が生き生きとされていました。食べる時も、味付けメニューに関してのお話をしながらみんなで一つの輪になり食事の時間を過ごされていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉、魚等メニューが偏らないよう注意している。水分はしっかり摂って頂くよう心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声かけをしている。口の中の異常の訴えを聞き歯医者を受診したり、口の中の観察をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけパットや紙パンツ使用を減らしている。食前や外出前にトイレの声かけを行っている。	入所者一人ひとりの排泄パターンを把握し、個別の対応ができていました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操や散歩をしている。野菜を多く摂取し毎日牛乳を飲んでもらっている。排便チェックも行い便秘しないよう調節している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望の時間帯を把握している。毎日入浴しているが、体調により1日おきの入浴者もいる。	健康状態の確認を取りながら気分を損ねないように配慮した入浴支援に努力されている（入浴拒否者は一人いる）	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援出来ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	十分理解し誤薬のないよう気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事やレク等の計画に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ドライブや外出、外食、買い物等その人に合わせ気分転換にもつなげている。	入所者に季節感を感じてもらおうと共に外気浴を浴びながらストレス発散できるように支援していき生きることの喜びを味わってもらいたいとの思いから外出支援にも、力をいれている様子が窺えました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その人の力に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話をかける支援をしている。携帯電話を所持している方もあり、家族との連絡もとっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光、温度などに気を配り季節に合った展示(飾り)をするなど様々な工夫をしている。	入所者をひとりの大人として生活する空間を作りたいとの思いを大切に、環境作りに努力されていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に座れるようにソファ等いろいろな場所に置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にソファやテーブル、家族の写真を貼ったり、生け花を習って置くなどして気持ちよく過ごせるように工夫している。	入所者の身体状況に応じ手すりを付けたり、便器を低くしたりして入所者の安全にも配慮した環境づくりに努力をされていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シルバーカーを通りやすくするなど安全に生活できる工夫をしている。		